

## ビル・ゲイツ基金による COVID-19 追跡装置計画が、FDA に拒否される

この家庭用コロナ自己検査キットは、米食品医薬品局が中止を命令

【Greatchain】

これと同趣旨の記事は RT にも出ていて、関心の高さを伺わせる。ビル・ゲイツという人物のいかかわしきは、知れ渡っているにも関わらず、腫れ物のように扱われている一面がある。彼の主張の基本は「人口削減」であり、人口削減が、愛を基本として人を扱うものでないことは誰も否定できない。彼の特徴は、この文章からもわかる通り、自分が何でもできる権力者であるかのように考えていることである。それはどこからくるかと言えば、WHO（世界保健機関）や国連が、彼を密かに支持していることからきている。

アレックス・ジョーンズが言っている通り、「ビッグファーマ（医薬巨大企業）は、ビルとメリンダ・ゲイツ財団を通じて画策し、WHO や国連を通じて、医療独裁制を築こうとしている。…テクノクラシーは、Covid-19 のロックダウンから出発して、選挙による政府の権限を踏み越えようとしている。」

わが国にも、ビル・ゲイツを奉るメディアがあるから、この FDA の賢明な処置などは、なかったかのように無視されるかもしれない。よほど用心すべきである。

Jay Greenberg, @NeonNettle

May 15, 2020



ビル・ゲイツの基金による COVID-19 を追跡テストする計画は、アメリカ食品医薬品局（FDA）によって拒否された、と報じられている。

シアトルに拠点をもつ私企業、「シアトル・コロナウイルス評価ネットワーク」（SCAN）は、家庭用コロナウイルス・テスト装置を、連邦の公機関によって、中止するよう命じられた。

FDA は SCAN に対し、ウイルスの遮蔽を停止するよう命じ、毎日、数百の家庭にテスト・キットを供給していたこのプログラムを、中止させた。

水曜日の時点で、このプロジェクトのウェブサイトへの、すべてのリンクは、その活動が FDA との紛争によって「現在停止中」だとして、回送されている。

「SCAN はこれまで、ワシントン州衛生局による緊急の許可を得て、活動していた」と、この通知は述べている。

「我々の知らされているところによると、5月8日に発令された改定ガイダンスでは、テストを続けるためには、別の連邦規定が要求されている。」



SCAN の活動停止の一日前には、ビル・ゲイツは彼の個人的ブログで、その努力を称えている。

「それは、ウイルスの拡散と振舞いを知ろうとする医療関係者にとって、重要な道具になる可能性をもつものだ」と、ゲイツは書いている。

RTによると、FDAは、SCANの家庭用の鼻綿棒について追加の情報を要求し、このプロジェクトが、「Covidのような病気を報告していない人々」を、テストする理由を求めている。

この通知は、このテストが、いつになったらオンラインに復活できるか、その予定を明らかにしなかったが、SCANは「積極的に働きかけて」FDAの関心を引き付け、3月以来、この役所と接触していると述べていた。

このプログラムは、ゲイツによれば、シアトル地区の5つの保健機関を先導して、コロナウィルスの監視システムを——病気・健康を問わず——「シアトル地区の人々のサンプル」をテストすることによって、つくり出す意図をもったものだ。

ゲイツは、この病気がどのようにして、「共同体を通り抜け、誰が最大のリスクを負うのか、また、肉体的に距離を取るやり方が、役に立っているかどうか」を見極めようとしているのだと言っている。

「この家庭テスト方法の最大の利点は、人々が診療所へ行く必要がないということで、自分を危険にさらすリスクも、他人を感染させる心配もないということだ」と、彼はつけ加えた。

FDAは、SCANプロジェクトが詐欺行為に繋がっているとは言っていないが、この役所は、コロナウィルス・テスト・サービスによって全米が大騒ぎをしたため、警戒態勢を強めていた。その多くは間違った、あるいは完全に偽物のテスト・キットだった。

このような事件がさらに大きくなって、FDA、FBI、CDC、その他の多くの連邦機関が、消費者たちに公的な警告を流した。



ビル・ゲイツは、この追跡プログラムが、ウイルスがどのように「共同体を移動するか」を、明らかにしてくれると考えている、と言っている。

積み上げられた全国の山ほどのテストが、アメリカで960万回も行われたことを示している、とジョンズ・ホプキンス大学は言っている。

しかし、公衆衛生関係者たちは、不十分な設備や人員について、警告を鳴らし続けている。

多くの人々は、各州は、遮蔽が十分に行われないうちは、再開放を考えるべきでないと言っている。

SCANは、このプログラムが禁止されてからも、少なくとも当分は、この目標が押し進められていくものと考えよう。

——以上